

ホームに電車が入ってきた。一両編成のチョコレート色の可愛い電車である。『のら』は自分に電車が段々近づいて来るのを見て、いきなり逃げ出した。「食べられちゃう。食べられちゃう」と言いながら。そしてさっき入ってきた改札を逆に出ようとしたが、入ろうとする人にぶつかってひっくり返った。出かける前の脅しが効きすぎたようである。『マナ』は周りの人にあやまり、『のら』の『のら』にこれに乗って町に行くんだよ」と言った。しかし『のら』は電車が恐ろしいのか、まだ震えていた。

電車の窓から『のら』は、顔を出して外を見ている。先ほどまでの怖がっていた『のら』の表情は、そこにはなかった。出発のベルが鳴り響き電車が動き出した。『のら』のニコニコ顔を、心地良い風が流れていく。駅のホームを離れ、電車は徐々にスピードを上げて行く。流れる風景を見ながら『のら』は、窓の外に向かって何か叫んでいる。『マナ』、『マナ』、『早いよ。これ』カッピ〜』より早いかな。』うるさいな。』カッピ〜』と比べるな』と思いつながら、『マナ』は知らん振りしていた。

外の風景に飽きたのか、『のら』は電車の中を見渡し始めた。そして揺れる電車の中をうろつくと歩き回り、一枚のチラシの前で立ち止まった。じっと見ていたが、やがてチラシに手をかけようと背伸びをしたその瞬間、電車のブレーキがかかりスピードが落ち始めた。『のら』は反動で倒れ、車内の端までコロコロと転がっていった。『マナ』が助けに近づくと、『のら』の『のら』の『のら』とブツブツ言っている。不思議に思い手を見ると、そこには『のら』の字が書かれたチラシを握り締めていた。

